

アーカイブズ

# ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第26号

平成16年 10月29日発行



CIVIL AIR FACILITIES, PHASE-1  
CIVIL GENERAL PLAN



## 那覇市内那覇空港拡張工事設計書 (資料コード: R00137314B)

那覇空港は、1954年11月15日に民間空港として軍民共用で使用されることとなった。1964年以降、日本本土における海外渡航の自由化政策や本土と沖縄間のトランジットビザ制度の実施によって渡航手続が簡素化された事等に伴い、那覇空港の利用は激増した。

1969年に米国民政府は、那覇空港の将来計画を策定した那覇空港民航地区基本計画(パースローニュー計画)を公表し、その第1次第1期工事として、米国民政府150万ドル、日本政府100万ドルの資金を投入し、那覇空港ターミナルビル北棟(図面左上)の公有水面26万4,400㎡を埋め立てた。(1969年7月着工、翌年10月中旬に完成。)

その後、沖縄返還協定の交渉が進捗するにつれて、那覇空港民航地区拡充整備に關する主役は、米国民政府から日本政府運輸省に移っていき、パースローニュー計画は、第1次計画の埋め立て工事を完了しただけで頓挫することとなった。

2004年8月12日(木)午後2時～5時

## 資料保存講習会 「無線綴じ本の簡易製本」 於：講堂

平成16年度の資料保存講習会は、無線綴じ本(接着剤だけで製本された本)の落丁等を修理する方法として簡易製本の講習をしました。作業を通じて、紙の目の見分け方が難しいとか、本を解体してみてもその構造が理解できなかったなどという感想がありました。また、除籍寸前の本が元通り使えるようになるのでぜひ職場で活用したいという図書館に勤務する方の声や、日頃自分で家譜等を製本しているという方からは製本の要領が参考になったという声が聞かれました。



2004年8月4日・11日・18日(水)

## 講座 | 「沖縄の歴史」 於：研修室

児童・生徒を対象に、夏休み期間中、3回の連続講座が開催され、小学校4年生から中学1年生までの24人が参加しました。第1回は琉球王国の時代、第2回は廃藩置県から沖縄戦まで、第3回は琉球政府の時代から日本復帰までをテーマに、公文書館の資料を使ったゲームなどを交えて学びました。子供たちからは、「沖縄の歴史」に興味を持ったとの感想がありました。



## 企画展「米国高官たちの沖縄へのまなざし」 於：展示室

2004年9月7日～10月31日



1945年沖縄戦終結から1972年日本復帰を迎えるまでの27年間の米国統治時代において、米国高官たちが戦後沖縄の復興のため、政治・行政、厚生、経済・金融及び産業、教育・文化の各分野でどのように関わっていたかを当館の取蔵資料を通して紹介しています。また、当時、米国の沖縄統治政策が現在の沖縄の政治、経済、社会及び文化にどのような影響をおよぼしたかを考える機会とするため、米国軍政府及び民政府の高官たちの政策立案に関する文書と併せて、琉球政府文書や写真資料等も展示しています。これらの資料を通して、沖縄の人々の復興や自立にむけた様々な努力の経過が伺えます。

## 映写会(1)「USCARが撮った戦後沖縄の復興」 2004年9月17日(金)午後6時～8時

## 講演会(1)「米国統治者の見た沖縄」 講師：比嘉 幹 郎 (沖縄アメリカ協会会長)

講演会に先立ち『USCARが撮った戦後沖縄の復興』の映写会を行い、9月14日に公開した米国国立公文書館から収集した新着映像資料45件の中から4件を紹介しました。

今回の講演会「米国統治者の見た沖縄」は、企画展に因んで開催しましたが、米国統治時代、米国高官たちが沖縄をどのように見ていたかを、沖縄アメリカ協会会長の比嘉幹郎氏にご講演いただきました。政治学者であり、米国留学経験や広範囲に米国高官たちに接した豊富な経験を通して、沖縄の戦後の米国統治史を複眼的な視点から説明していただいた講演でした。





1954年6月  
比嘉秀平行政主席が沖繩本島各警察署巡視  
辺土名地区警察署にて  
(琉球政府関係写真資料アルバム210 057838)

1955年10月 メルビン・M・ブライスを団長とする  
米下院軍事委員用地問題調査団に解決を訴える住民  
(琉球政府関係写真資料アルバム209 057738)



1958年5月  
処女航海で那覇港に寄港した  
大阪商船移民船あるせんち丸  
(琉球政府関係写真資料アルバム218 059471)



## 琉球政府関係写真資料の追加公開

1950年代のもの約2,100件ほか、日本復帰までの写真全4,700件が  
新たに閲覧できるようになりました。

**公文書館**では、県広報課から写真資料の引渡を受け、「琉球政府関係写真資料」として閲覧に供しており、平成15年12月から約5万5千件をご利用いただいています。このたびおよそ4,700件を追加公開する運びとなりました。

前回公開分は、1960年以降のものを中心としていましたが、今回の追加公開分には1950年代のものが約2,100件含まれており、およそ50年前の沖縄の社会の様子や、懐かしい風景などを見ることができます。



1963年7月 那覇 波上宮周辺  
(琉球政府関係写真資料アルバム207 057448)



1957年5月 本土視察団(高岡大輔団長)来沖に際して、  
伊江島真謝区民が土地問題の解決を訴える垂れ幕  
(琉球政府関係写真資料アルバム217 069202)



1967年9月から日本政府が沖縄住民に対してパスポートを発給できるようになった。第一号のパスポートを手にする松岡政保行政庁長官夫妻  
(琉球政府関係写真資料アルバム221 059916)

# 特集 工事図面

～琉球政府会計検査院文書から～

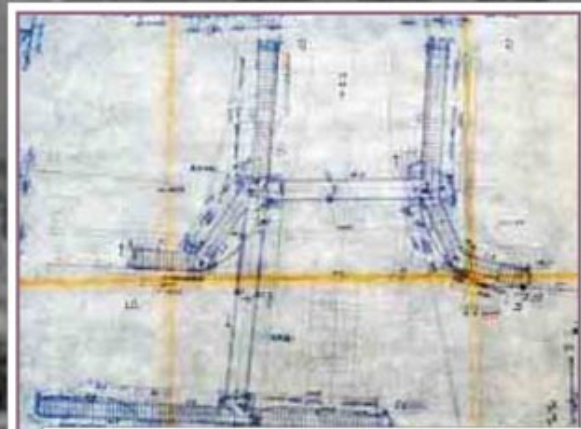
文化財



天女橋実測図(修理前) 1969年  
特別重要文化財天女橋復元修理工事設計書【R00140425B】



北中城村中村家平面図 1969年  
北中城村中村家平面図 文教局【R00140420B】



むつみ橋交差点横断歩道橋 一般図 1969年  
那覇市国際通りむつみ橋交差点横断歩道橋工事【R00139155B】



安里川実測平面図(ひめゆり橋～壺橋) 1968年  
那覇市安里川河川改修工事 工事設計書 建設局【R00138919B】

土木

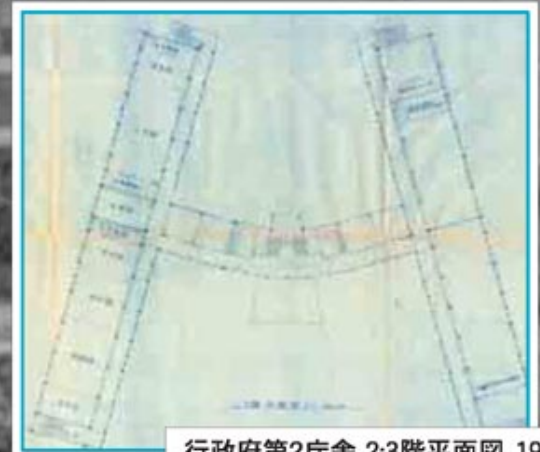
公文書館が所蔵する公文書には、文書だけでなく、図面や写真等も含まれています。今回は、琉球政府会計検査院文書に含まれている工事図面をご紹介します。

琉球政府の会計検査院は、各行政事務部局から提出された計算書や証拠書類をもとに、政府の収入支出の決算を検査する部署です。1957年頃からは、会計的な検査の他に土木技師、建築技師を専任に配置し、工事関係書類を技術的な面まで専門的に検査できるよう強化してきました。

公文書館で所蔵する会計検査院文書には、5,000簿冊余りの工事設計書が存在します。これらの中には、公共施設はもとより、重要文化財、県内の小中高等学校等の図面が多くあり、今は存在しない、または形を変えた当時の建築物等が具体的に記録されています。

【 】内は資料コードです。

建築



行政府第2庁舎 2:3階平面図 1968年  
行政府第1・2庁舎改修工事設計書【R00135558B】



那覇高校校舎 配置図 1967年  
那覇高校校舎新築工事設計書【R00140640B】



新那覇病院申請地 敷地現況図  
新那覇病院新築工事 図面 3-1【R00141328B】

企画展「米国高官たちの沖縄へのまなざし」  
— 沖縄の戦後復興 —

- ・ おもしろかったが、4分野の展示内容のうち、どれかひとつに絞って取り上げて詳しくやっても良かったと思う。(20代)
- ・ 米国占領下の沖縄の事は、学校でもあまり習わないから、この企画展を見ることで少しづつ何が行われていたのか理解できたような気がします。(20代)

- ・ 政治・経済・厚生……各分野を個々に深く掘り下げる企画展を期待します。また、沖縄の資料だけでなく、沖縄・日本・米国・沖縄に関係するアジアの資料もリンクづけながらの展示もおもしろいと思います。(30代)

映写会「USCARの撮った戦後沖縄の復興」

- ・ USCARの撮った資料はなかなか見ることができず、大変興味深いものです。(20代)

- ・ 映像は大変貴重で興味深いものであったが、画面に即した解説コメントがあってもよいのではないか。(70代)

- ・ 戦後の世相が見られて興味深い。(60代)

講演会「米国統治者の見た沖縄」(講師：比嘉幹郎)

- ・ 戦後の復興は私には想像もつきませんが、大変な世の中であつたらう沖縄で明るく強く生きてきたことがうかがえよかったです。(年代記載なし)

- ・ 実際にお会いになった人物についての印象が何えたので、得がたい内容だと思います。(30代)

- ・ アメリカが基本的な認識を持って沖縄の統治をしていた背景が見えて、非常に有益な講演であった。(60代)



## 「デジタルとアナログの比較」

デジタルカメラとフィルム式カメラを例に、デジタルとアナログを比較したいと思います。デジタルカメラはフィルム式カメラのように現像やプリントをしなくても撮影したその場で画像が確認でき、失敗したら画像を消せるなどメモを取る感覚で気軽に撮影することができます。最近は画素数も高くなり600万画素のデジタルカメラが販売されるなど、画質もフィルムカメラで撮影したものと同レベルに達しています。

画素とは、デジタル画像を構成する最小の単位のこと、ピクセルともいいます。画素数が高いと画像データの記録量も大きくなるため、画質の向上にもつながります。

デジタルカメラに内蔵されているCCDは、撮影した画像を記録するセンサーであり、フィルムに当たる部分です。仮にフィルムをデジタルカメラの画素数に置き換えて比較すると、次のようになります。

現実には、フィルムの画像は画素ではなく粒子で構成されていますが、画素と比較するとフィルムは高い画素数になることが分かります。

フィルムは時間の経過や複製により画質も低下しますが、デジタル画像は画質の低下がなく、データの損失がなければ永久的に画像を再現することが可能です。

また、編集・加工が容易で、インターネットで画像を広域に配信できるなどの利点もあります。但し、同時にデータを記録するメディア(CDなど)の保存と画像を再現するパソコン機器やOS等も用意できることが条件です。逆にフィルムは、裸眼で画像を確認することが可能で、不意の衝撃で一瞬に情報が消去されることもなく、記録された情報の書き換えもできないという信頼性の高さも利点に挙げられます。

最近では、デジタル化という言葉をよく耳にしますが、その目的と共にデジタルとアナログの特性を知ることもデジタル化を選択する際のヒントになると思います。

種類	画素
デジタルカメラ(CCD)	約600万画素
35mmカラーフィルム(一般写真用)	約1,900万画素相当
16mmマイクロフィルム	約4,700万画素相当
35mmカラーマイクロフィルム	約5,700万画素相当
35mmマイクロフィルム	約2億1,300万画素相当

公文書専門員 吉嶺 昭

参考文献：社団法人画像情報マネジメント協会発行「デジタル化に対応した文書情報マネジメントの基礎と応用」2003年  
金澤勇二著社団法人画像情報マネジメント協会発行「マイクロ写真のQ & A」2003年

# 大統領図書館



マサチューセッツ州にあるケネディ大統領図書館の閲覧室。一日平均7〜8名のリサーチャーが大統領文書に目を通す。



テキサス州にあるジョンソン大統領図書館では、展示室から書庫の一部を眺めることができるようになっている。ジョンソン大統領がリサーチセンターとしての機能を強調したかったことによる。

アメリカは今、大統領選挙の真っ只中、不況・失業問題、財政赤字、医療・社会保障制度改革などの国内問題のほか、泥沼化するイラク戦争、終わりの見えないテロリズムとの戦いなど、これまでにない深刻な課題を数多く抱え、甚だはこの選挙を「アメリカ史上最も重要な選択」と位置付ける声も聞かれます。

そんな中、今年は、当館にしろても大統領と関わり深い年になりました。と言うのも、長らく課題となっていた、「大統領図書館」の調査に本格的に取り組みことになったからです。

大統領図書館とは、大統領在任中のホワイトハウスの公文書、大統領自身や家族の私文書、大統領の側近やゆかりのあった人々からの寄贈文書などを保存、閲覧提供する文書館。また、大統領の生い立ちや業績に関する写真やフィルムなどをふんだんに使った展示室も目玉の一つになっています。図書館用地の確保や建物の建設は大統領自身の責任でなされ、建設後の運営は、管理財団と国立公文書館が分担して行います。

二十七年間に及んだ沖繩統治との関わりでは、リーズルト、トルーマン、アイゼンハワー、ケネディ、ジョンソン、ニクソンの六人の大統領が挙げられますが、その中でもミネソタ州イェンズベンドにあるトルーマン大統領図書館での調査が強く印象に残りました。

トルーマンの生家からさほど遠くない小高い丘に建てられた図書館の展示室へ入ると、まず、ガラスケースに入った「The Buck Stops Here」と書かれた卓上プレートが参観者を迎えてくれました。それは、トルーマンが参観者を迎えてくれた執務室の机においていたもので、これこそは、大統領としての彼の政治信条を最も端的に象徴するつなのだそうです。Buckというのには、その昔、ポーカーゲームの札切り役が分かるように目印として使われたナイフのことで、「責任転嫁」の喩えに使われるようになったこと、そこから、「Buck's here」という意味になるのだそうです。



ミネソタ州にあるトルーマン大統領図書館では、まず「The Buck Stops Here」のプレートが参観者を迎え入れてくれる。

トルーマンは在任中、広島、長崎への原爆の投下、トルーマン・ドクトリンの実施、国家としてのイスラエルの承認、朝鮮戦争介入など歴史に残る数々の決断を下しましたが、それら全てがこの信条に基いてなされたものでした。

トルーマン大統領図書館には、それら政策に関連する文書のほか、会議の議事録、日誌、電話録、手書きのメモまでも一枚一枚大切に残されています。それらは、国民から国の針路を託されたトルーマンが、国民に対する説明責任を果たそうとした努力の痕跡のようにも見えなりました。

自らの足元に目を向けてみると、沖繩はその地政的条件から他府県とは異なる歴史の道を歩んできています。その道の多くは、歴代の主席や知事が自ら下した決断によって選ばれた道でもありました。その痕跡をきちんと記録として残す。今年の夏は、大統領図書館を回りながら、「歴代知事文書館」なるものに思いを馳せてみたのでした。

## お知らせ

平成16年度沖縄県公文書館 **連続講座**

# 「島津家文書に見る 琉球王国の実像」

講師：豊見山和行(琉球大学教授)

日時：2004年11月18日(休)・25日(休)・12月2日(休)  
午後6時30分～8時

場所：沖縄県公文書館 講堂

平成14年度に東京大学史料編纂所より複製で収集した「島津家文書」や、「薩藩旧記雑録」などを使用し、琉球王国の実像を3回にわたって詳しく解説します。琉球国王に薩摩藩主島津家の当主が忠誠を誓わせるため提出させた起請文「琉球国中山王尚寧起請文」、薩摩藩側の史料「御掟之条々」などを読み解きながら、琉球王国の実態を史料を通して考察していきます。

平成16年度沖縄県公文書館 **移動展**

# 「アーカイブズへの誘い<sup>いざな</sup> -記録で辿る那覇の今・昔-

日時：2004年12月1日(休)～6日(月)  
午前10時～午後8時(最終日午後6時まで)  
場所：那覇市パレットくもじ7階 リウボウホール

移動展は、公文書館の利用を普及・促進することを目的としています。昨年までは公文書館を利用する機会の少ない県内離島市町村で行ってきましたが、今年度は那覇市で開催いたします。公文書館の役割と所蔵資料を紹介するとともに、琉球王国時代から今日に至るまで政治・経済・文化の中心的役割を担ってきた那覇市の変遷を、当館収蔵資料(文書・地図・写真等)で辿ります。

## 利用案内

### ● 入館無料

● 開館時間 9:00～17:00  
(閲覧請求は16:30まで)

● 休館日 月曜日  
(土日も開館しています)

2004年 11月							2004年 12月							2005年 1月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6				1	2	3	4							1
7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
28	29	30					26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29

(赤色)休館日

### ● 閲覧室の利用方法

- 初めて利用される方は「利用証」の交付をうけてください。その際は身分証明書の提示をお願いします。
- 利用証をお持ちの方は、閲覧申請をして、資料の閲覧ができます。
- 参考資料室の資料は自由に閲覧できます。
- 閲覧室への所持品等の持ち込みには、制限がありますのでロッカーをご利用ください。
- 資料の館外貸出は原則として行っていません。
- 資料の複写ができます。(複写は実費をいただきます。)
- 担当職員が資料に関する問い合わせ・相談に応じます。

### ● 交通の案内

- バスをご利用のかたは新川バス停下車
- ・那覇バス株 市内線1番
  - ・東陽バス株 91番

## MAP



アーカイブズ  
 沖縄県公文書館だより **ARCHIVES** 第26号  
 発行日 平成16年10月29日  
 発行 沖縄県公文書館  
 編集 財団法人沖縄県文化振興会 公文書管理部  
 〒901-1105 沖縄県南風原町字新川148-3  
 TEL 098(888)3875 FAX 098(888)3879  
 URL <http://www.archives.pref.okinawa.jp>